

<ひとこと>年末恒例の特番。紅白・K-1などがありますが、私は迷わずガキの使いです。

11月30日第3回あいネット運営委員会

11月16日に第3回、あいネット運営委員会が開催されました。昨年に引き続き市の関係各課をお招きし、ゲストスピーカーとしてその課の役割や現状を具体的にお話いただき、意見交換をしています。第3回は「柏市障害福祉就労センター・ハートフルワーク柏」。

障害者の雇用促進及び定着を図る。企業・施設・学校等との連携を図り、企業開拓することを目的に今年、4月にオープンしました。

今回はハートフルワーク柏、宮本所長からお話いただきました。以下お話を抜粋です。

業務内容

・職業能力評価事業

(1) 作業適正評価、読み書き、計算能力、人との関わり方、その他職員による作業観察などを行う。

(2) 評価(アセスメント)は職員が行なう。

(3) ケース会議により評価判定を行う。

(4) 職業準備訓練の適否の判断も行う。

・就労相談事業

(1) 就労に意欲を持つ障害者の相談に応じる。

(2) 就労支援センター職員も必要に応じて、障害者の支援に入る。

(3) 企業及び就職者からの相談に随時対応する。

委員の方からは、「当センターの立ち上げに関わったが、立ち上げ当初に比べ徐々に相談件数が増えてきていると感じている」。

「医療の観点からすると、障害のスタート地点にいうことで、例えば傷病で離職し手当てをもらった後、その先が未定の方も多くいる」。

「障害がある方で、状態の波が大きい人もいますので就職活動を始めるタイミングや時期を見極めることが大切であり、難しいことだと思う」。

「評価や訓練の結果がすべて正しい訳ではないのでは。結果次第で足切りになるようなことは避けたい。本人にとつての働きやすい多様な雇用形態を望む」。

「企業への研修の場を設けてほしい。障害者を雇う側である企業が障害の理解が薄いと感じている。障害の特性を生かせる多様な雇用形態を望む。公的な機関でも障害者

雇用をさらに促進した方がよいのでは、等の意見を頂きました。

* * * * *

就労関係の相談を受ける際、御本人の「働きたい」という意志と、支援者側からみて「まだ段階を踏みながら様子を見ていった方がよいのではないか」と思うことがあります。御本人の意思を尊重しつつ適切な就職支援を行うためにはハートフルワーク柏のような職業に関する専門機関との連携が欠かせないと思われました。また、委員の方からの意見でもあったように雇用サイドにも障害の理解が広まり、浸透していくと良いと思います。障害という特性を活かし働きやすい職場、その人に合った働き方ができる環境が整うと良いと思います。就職氷河期と言われる昨今、一般就労・障害者就労ともに働きたくても働けないという状況もあると思いますが、雇う側・雇われる側双方の願いが上手く折り合い、成就することを切に願います。



「障がい者活動センター」開設に向けての要望

「障がい者活動センター」創設を支援するためのチャリティーコンサートの2回目(1月29日(火))にアミューゼ柏にて開催されましたが、具体的な動きとして障がい者活動センターの開設に向けて、柏市中心障害者連絡協議会とかしわ障害者をむすぶ会とで要望書が柏市長宛に提出されているところです。

このような要望が必要な状況として、障害者にとつて一般に施設利用を申し込む以外には場の確保がなく、障害者の活動上での障壁になっているという現状があります。

また、建物も障害に配慮されていない箇所が多いのが実情です。「障害当事者が直接社会に訴える力が弱いため、市民の支援や働きかけが必要であり、障害のある人の社会参加、地域参加、生活の広がりを進めていくことは、地域を豊かにし、本来の人間社会のあり方を実現することに寄与する」と要望書にあります。

障害を持つ方はその特性のためにどうしても活動範囲、行動範囲が狭くなってしまい、それゆえ市民の方が障害を理解する機会を得られないことにも繋がっているのではないかと感じます。この障害者活動センターは他の機能もあわせ、障害を持つ方と持たない方の相互理解の一つの窓になるのではと期待します。

増尾に事業所がありますが、来年1月の開所を目指し、新たに児童デイサービスを豊四季に開所予定です。(※詳細はじんけんぽん2011.6月号をご覧ください)

柏市精神障害者地域移行支援協議会



「精神障害者地域移行支援」とは、精神障害を持つ方が住み慣れた地域を拠点として、ご本人の意向に沿って、ご本人が地域での充実した生活を送れるよう医療機関や各関連機関が連携をしながら支援していく事業(取り組み)のことで、柏市では平成23年度より開始されました。

主に長く入院をされている方が地域に戻り生活をしていくための支援で、退院に向けての準備、退院時の支援、さらに退院後の生活についても支援をしていきます。

長い間入院生活をされていた方にと

つては、炊事や掃除、洗濯、買い物等の家事、お金を日々の生活の中で計画的に使っていくこと、退院した後の通院、日々何をすべきか、近所付き合い、等々久しぶりの経験になることが多く、それだけに退院への不安も大きなものだと思います。

それらの不安や心配事にご本人と一緒に向き合い、社会資源も活用しながら一つ一つ解決していった地域での暮らしができるようにお手伝いをしていくものです。

柏市ではそのために、今回の事業を

「たんぽぽセンター」を中心に地域の医療機関や、福祉事業所、訪問看護ステーション、柏市保健所、相談機関等が「協議会」を組織し連携して地域移行がスムーズにできるよう体制を取っています。

10月と11月に協議会が開催され、柏市で実施していくための枠組みから細かな取り決めが話し合われ、この事業を活用して退院される方についても医療機関から積極的に提案があり、最初の対象者の方が決まりました。

これから一人でも多くの方が地域の

インナーミーティング



あいネットに寄せられた情報をご紹介いたします。

以前、柏うおーかーでも紹介いたしました児童デイサービス・にじつこ in 柏さんから新しい事業所開所の情報を頂きました。現在

- ・利用日：月々金(土曜は対応検討中)
- ・対象：原則就学児の方(未就学児は要相談)
- ・利用時間：学校終わり(18:00迄)
- ・ご連絡先：04-7138-5101(担当：今井)



株式会社ラインアローハッピーウェイ

柏駅東口から徒歩10分の場所に、H22年12月1日に開所した就労継続支援A型事業所「株式会社ラインアローハッピーウェイ」があります。主任の須藤さんと村山さんにお話を聞きました。

Q どんな場所ですか？

1日4時間（9時～13時まで）仕事をする場所です。仕事内容はその時に受託した仕事によって異なりますが、最近では手さげ袋を作る仕事やコサージュに付けるビーズ部分の作成、箱折り等を行っています。これらの仕事を納期までに仕上げます。

Q どんな方が対象ですか？

基本的には、手帳を所持しており、9時～13時までを週5日間通える方が対象です。

障害の種類は問いません。

定員は20名までですが、日中は施設外就労で外に出ている方も多く、実際はもっと多くの方に利用してもらおう事が可能です。

Q どんな事を大切にしていますか？

ここに通う方たちには、一般就労に向けての基本的なマナーを学んで欲しいと考えています。仕事は繰り返していく内に慣れますが、人とのコミュニケーションや思いやりは仕事をする上でとても大切です。

さらに、スタッフは利用者たちの様子を見ながら、仕事内容や席順を変えます。必要に応じて声をかけをする事もあります。その人のいいところを伸ばして、社会で通用するようになって欲しいと考えています。

Q 最後に一言お願いします。

一般社会の中の自立を目標として支援・訓練をしています。見学はいつでもどうぞ。

ここは保護的な場所ではなく、仕事する場所です。スタッフは「自分の事は自分でやってみよう」というスタンスを持っており、福祉的な考え方をもちつつも、一般社会で働く事を見据えた取り組みをしていると感じました。ここは障害を乗り越えて、少しずつ社会に溶け込んでいく場所であると感じました。



住所・・・千葉県柏市泉町6-38
電話・・・04-7157-2920



お知らせ

◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット(電話:04-7165-8707 FAX:04-7165-8709)まで◇

講演名	日時	場所	費用	申込み	問合せ先他
～千葉県難病患者さん大集合！～ 1. 千葉県難病事業の報告 2. 震災から学ぶ 「被災地の状況について」 岩手県難病・疾病団体連絡協議会 代表理事 千葉健一 氏 「千葉県の状況について」 浦安市の状況・旭市の状況	12/9 (金) 13:30～16:30 (開場 12:30)	千葉市生涯学習センター 一大ホール (千葉市中央区弁天 3-7-7)	無料	不要 ※先着順	お問い合わせ先： 千葉県総合難病相談・支援センター (千葉大学医学部附属病院内) 住所：千葉市中央区亥鼻 1-8-1 TEL:043-222-7171 Mail:nanbyo-shien@office.chiba-u.jp HomePage: http://nanbyo-ho.chiba-u.ac.jp
～成年後見制度個別相談会～ (秘密厳守・相談無料)	平成24年 1/29(日) 10:00～16:00 (12:15～13:00 までは休憩)	千葉県社会福祉センター 5階 大研修室 (千葉市中央区千葉港 4-3)	無料	必要 (定員 70 名)	主催：千葉県弁護士会・千葉司法書士 会・千葉県社会福祉士会・千葉県社会福 祉協議会 申し込み・お問い合わせ先/ 千葉県社会福祉協議会(担当:千葉県後 見支援センター) TEL:043-204-6012 FAX:043-204-6013
ノーマライゼーション学校支援事業 第5回・6回研修 第5回「発達障害のある子と集団づく り～通常学級を中心に～」 講師：今関和子さん (千葉大学非常勤講師) 第6回「発達障害のある子の安心でき る学校づくり～小中高をつないで～」 講師：佐藤慎二 さん (植草学園短期大学教授)	平成24年 1/29(日) 第5回 13:00～15:00 第6回 15:15～17:15	船橋市葛飾公民館 第2・第3集会室 (JR 西船橋駅北口から 徒歩約10分、京成本線 京成西船橋から徒歩約 7分)	各1000円 (資料代)	必要 ×切 2012年 1/24(火)	主催:NPO法人ちばMDエコネット 共催:千葉県教育委員会、千葉県 申し込み先: TEL/FAX:047-426-8825 Mail:sun@mdeconet.jp